

クローディーヌ・セール著、門田眞知子訳：
「晩年のボーヴォワール」、藤原書店

数学通信に何か一般向けの書評も、というおはからいで、この本に対する感想を核にしたの作文の宿題を頂きました。筆者のフランス滞在の思い出など交え、ここに少量の文を編んでみることにしましょう。

筆者のフランスでの生活は、学生時代と職業人時代あわせて計5年間程度ですが、そのうち80年代の3年間ほど、エコール・ノルマル・シュペリールと呼ばれる大学の女子寮に住んでおりました。

フランス政府給費生のフランス語の専攻の日本人留学生にとっては、ここに住むことが給費生の試験の順位が上位である証明でした。従って彼等にはこの学校の学生と同等のエリート意識が有り、ノルマリアン（エコール・ノルマル・シュペリールの学生のこと）たちの仲間として生活をしていました。そこに、私のような理系の人間はフランス語専攻の留学生とは異なり、ただおまけで入寮しておりました。

このエコール・ノルマル・シュペリールの女子学校の当時の校長が化学者のジョージアヌ・セール氏で、著名な数学者のジャン・ピエール・セール氏の夫人でもあり、この本の著者クローディーヌ・セール氏の母でもあります。

ジョージアヌ・セール氏とはほんの数回しかお話しませんでした。質実で、いかにも科学者といった様子のご婦人でした。ジャン・ピエール・セール氏は当時でもそこそこお年でしたが、エネルギーで、数学者として厳しい方だと思っています。そのような方が、娘クローディーヌ・セール氏の行っている女性解放運動に関して意外にも協力的であったというぐらだが、この本には少しばかり出てきます。

「電話でもわずかに鳴ろうものなら、彼（ジャン・ピエール・セール）の仕事は妨害される、そのことをいやというほど私は知っていたからである。」

しかしながら、「有名、無名の女性からどのような戦術をとるべきかの話し合いや、援助を求めて、一日のうちの時間を問わず、家に電話がかかってきた。最初、父（ジャン・ピエール・セール）は冷ややかな口調で電話に対応していたが、ひっきりなしに邪魔されているのに、だんだんそのことを彼は楽しみ始めた。彼の口調はやさしくなり、私が家にいないときには、私のかわりに丁寧に電話に応じてくれるようになった。」とあります。

この本の著者クローディーヌ・セール氏はフェミニズムの専門家で、女性哲学者のシモーヌ・ド・ボーヴォワールを中心にして、フランスの女性集団が70年代からいかに数年のうちに急速に女性の地位を変えていったかというドキュメントをここに記述しています。そこには、クローディーヌ・セール氏自身の学生生活、20歳の彼女が62歳のボーヴォワールと出会って女性解放運動に身を投じる様子や、1986年に没する迄の晩年のボーヴォワールの思想生活の描写があり、また様々な場面での率直な感動の念が示されています。

いまからひと昔前、と言ってもいい時代のフェミニズムの展開をより良く理解するには、重要な書のひとつであると思われます。

画家であったボーヴォワールの妹エレヌとの親交や、今でいう女性のドメスティック・バ

イオレンスからの救済センターの1975年からの設立に関する運動等を通して、クロード・セール氏は女性であることの困難と誇りとを再認識し、その精神を投入して、1995年にこの本を出版しています。

上に引用した部分からも伝わるように、父である数学者ジャン・ピエール・セール氏は、自分をクロード・セール氏の私設秘書と呼び、連絡のあった女性達の名前と電話番号のきちんとしたリストを記したりなど、娘の活動の支援者となっていたそうです。また、この本がクロード・セール氏と個人的にも親しい門田真知子氏によって日本語に訳されたときには、電子メールでの示唆も訳者に送ったとのことで、ジャン・ピエール・セール氏の数学を知っている方には、興味深いエピソードでしょう。母親のジョージアヌ・セール氏の化学研究者としての生活の様子や、ジャン・ピエール・セール氏のCNRS 賞受賞の際の写真なども載っています。

日本の大学ではまだ女性スタッフは特別な理由でもないとなかなか採用されませんが、今だに殆どの数学教室で女性の教授が0人または少人数であるという国は、今日珍しくなってきました。

フランスはもとより、台湾や中国などの女性数学者の多さと日本のそれとも比較になりませんが、それでも多分、以前より悪くはなっておりません。

女性が認められるためには、性別が問題にならないほどの優れた業績をあげれば良いというのが十分条件であって、それは人種国籍性別によらない、数学者としても本質的な願望です。

筆者などはそういう夢だけは人一倍なので、身が雑用にとられながらも、ああ良いものを創りたい、見つけたい、と心しております。

このような本が突然数学通信に載ることで、女性数学者ばかりでなく男女両方の数学者や、数学に興味をお持ちの読者の方々に対し、何かプラスになるようなことがあったらいいなと思います。

(平田典子, 日本大学理工学部数学科)